

Ⅲ 住民懇談会の結果

1 緑ヶ丘・滝坂／若葉・調和小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名前）（原文通り）

テーマ グループ	テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」	テーブルワーク 2 「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	テーブルワーク 3 「ワーク 2 の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
グループ A	●安心感 ●見守り ●顔の見える関係	●疑心暗鬼 ●世帯の縮小 ●多忙 ●閉鎖性の助長 ●困る人の増加	●メリットを知る ●支える人 ●連絡先を知る ●空家対策 ●システム構築
グループ B	●自治会 ●イベント・サークル等 ●効果	●後継者不足組織の弱体化 ●プライバシー個人情報 ●相談先がわからない	●あいさつ情報提供 ●行政、企業との連携役割を頼む ●イベント・まつり
グループ C	●子ども ●活発な地域のつながり ●ゆるやかなつながり	●見えづらさ ●プライバシー ●つながりいらない?? ●情報 ●タイミング	●楽しむ！ ●場所づくり ●あいさつが大事！！（きっかけ） ●情報の届け方
グループ D	●情報 ●仲間／気持ち ●共通のわだい	●居住区によるへだたり／情報が届かない届いていない ●災害 ●知らないことによる不安 ●気持ち ●つながらなくても OK	●災害 ●情報発信のツール ●情報／行政への要望 ●すぐ取りかけられること ●そうなこと

■個別意見（原文通り）

【グループA】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
安心感	疑心暗鬼	システム構築
・ひとり暮らしになられた方が困った時に、昔からのつながりで助けられたこと。 ・苦しくても解決しなくても、だれかがみていてくれる ・専門家から専門家を紹介していただけた！！ ・分からないこときける！！ ・近所を犬をつれての散歩 ・犬の散歩している方みるとうれしい ・日々生きる理由ができる ・困っていて自分で解決できないこと。相談できる ・色々な方がいることでほっとする ・まだまだ制度知らない方多いことに気付かされるもったいない ・子育ての大変さ。（働く世代） ・子どもたちが安全に暮らせる未来にしたいと思える ・中学生と朝のゴミ拾いをする事で年代をこえた顔みしりが増えたこと ・高齢者会食に参加，設立 ・高齢者配慮への意識↑	・年金受給への引け目 ・生活保護受給への引け目。 ・病人扱いされたくない ・世代による価値観がマイナスになる。→辛さ，苦しさを表出させてはならない。恥とを感じる ・好奇の目にさらされたくない ・相談先が分からない ・誰とも話したくない ・周囲の視線がこわい ・偏見にさらされて生きてきた ・他者の介入を嫌う。介護に疲れて誰にも助けを求められない例 ・誰かにたよることが自分自身ゆるせない ・他者に自分のことを伝えたくない。 ・周囲への不信感が大きくなっている ・噂話の種にされるのではないか ・不審者だと思われたくない ・誰も信用できない	・ヤングケアラーと公共ネットワーク等のシステム構築 ・生活保護者とつながるネットワークシステムの構築 ・IT 世代他(福祉)アプリを通じてダイレクトにつながるシステムの構築 ・行政への不信感↓ ・情報発信の工夫 ・同じ不安をもっている人がどうやって解決，ふんとうしてるか知る ・市の広報紙での宣伝⇒こんなイベントあるよ！アナログなのでアクセスしやすい ・ケアマネ，好事例共有 ・大人版子ども食堂もうやってる？ ・学校をつかってイベント⇒懐かしさもあって参加者増？ ・どこかが介入。どこかへつながったことで良くなった例を！！ ・自治会の入り方を知る！！（若い世代）
見守り	困る人の増加	支える人
・震災の時に情報交換ができたこと ex:お店開いている電気いつから復旧… ・大雪の時，車を駐車場から出す時助けてくれた ・東京都消防庁の災害ボランティアを 20 年以上やり，地域の方と接点を持つ ・地域のおまつりに参加できた⇒自分も楽しめたし，大人や子どもたちもたのしそだった	・災害時に連携できない⇒情報交換，相互救助… ・社会的貧困⇒必要な情報，支援が得られない ・地域の非活性⇒イベントやおまつりが無くなる。経済的，文化的活動の減少，衰退 ・高齢化してつながりがない ・外国籍の方で言葉が通じない，通じにくい。文化，風習がわからない	・IT になじまない方々への対応（人とのつながりが1番か？） ・ネグレクトを察する人材の強化。（思いやり，やさしさ，経験者）

顔の見える関係	多忙	連絡先を知る
・地区協や色々な団体に属することで多くの学びをえられたこと ・自治会の設立近所の顔が良く知れた。 ・自治会 75 才以上(1人)の会員にみまもりに加入 ・大型マンションの理事になって、多くの住民と知り合いになれた。 ・子どもたちの通学見守り運動⇒この町なら安心して子育てできるという安心感が生まれた ・子ども食堂を通し、多くの子ども達の成長をみることができたくさんのスタッフと仲間になれた。	・今の生活を守りたい大事にしたい ・仕事が忙しい ・余裕がない ・パートでいそがしい。 ・忙しくて家には寝にかえるだけ	・医療関係者と民生委員さん、ボランティア、自治会等とのつながり。 ・本人申請以外の連絡が生きるネットワーク作り ・通報 ・東京ウィメンズプラザ連絡 ・こころの健康センターへつなげる。 ・地域包括支援センターへつなげる ・若ナビα連絡
(枠外・テーマなし)	閉鎖性の助長	メリットを知る
・うつ状態を発症⇒病院、医療関係者との連携・善意のある方々とのつながり ・長期ネグレクトによる自殺未遂・多くの方々が間に入り連携を取って下さった。・孤立しない様して下さった。 ・提案を出す事で物事を改善するきっかけとなった事 ・年賀状や贈りものを通じて、つながり続ける楽しみ。(年を重ねる程)	・ネグレクト⇒親:逃げ場がない、子:抵抗する意志が存在しない ・治安悪化⇒見守りが無くなる。条件は目に付きにくい所で発生 ・ネグレクト他・大人の ADHD が影響を及ぼす。 ・閉ざされた家庭になかなかはいっていけない	・1人で抱えこまず複数人で対応 ・嫌／苦手な話題のかわし方も周囲と相談し持続可能な繋がり ・数年単位解決に要すること覚悟する ・つながりをもつメリットを知る。 ・ペットを飼っている高齢者と、保護犬保護猫団体とのつながり。(飼いたい方々も含む)
	世帯の縮小	空家対策
	・空家がふえた。 ・1人ずまいが多い	・空家対策 ・空き家の活用を市が援助 ・高齢者の名前、住所が判る様に書いてあっても昔の様に住所表示されていない所が多く、つながりや、どこのだれか判らない。

【グループB】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
自治会	後継者不足組織の弱体化	行政、企業との連携 役割を頼む
・自治会の班長になり近隣だけでなく顔見知り、あいさつちょとした話をする人ふえた ・老人会の副会長会計をしていること大変です。 ・自治会の防災訓練に参加することで、近所の人の顔が分かった。	・老人会で毎月会報を配りサークル活動がわかるようにしているが参加者は同じ人たち ・男性のサークル参加が少ない。 ・後継者不足 ・イベントの縮小・中止(コロナの時期から)	・企業や商店との連携 ・防災訓練を地域の防災倉庫の用具を使ってみんなでためしてみる。大人も子供も参加する。 ・(行政)活動の費用(簡単なもの) ・一人ぐらしで身よりない人でこまり事をかかえている人については専門職とも連絡して近隣も役割はたす ・自治会と行政がつながり、一緒に考える。
イベント・サークル等	プライバシー個人情報	あいさつ情報提供
・夏まつりにボランティアとして参加 ・仙川オレンジカフェのスタッフ参加したこと。 ・地域センターでの10の筋力トレーニング代表者になったこと ・夏まつり(小学校)を手伝ったことで、つながりできた人増えた ・市で行っている10筋体操に参加することで、地域住民とつながった。 ・マンションに住んでいる高齢夫婦、趣味(麻雀)を通して地域のサークルに参加 ・「ふれあい給食」のスタッフ参加をして高齢者の方といろいろお話しが出来たこと。	・ひっこして来た人はゴミ出しの情報がなくて困っていた ・プライバシー重視お互い干渉しない ・個人情報との関係でつながりづくりにくい ・定期的な集会がない。(集合住宅) ・誰が住んでいるかわからない ・あいさつがない	・あいさつ簡単な会話 ・あいさつの声かけから話しをしてゆく ・調剤などお店から通っている所で情報を知ってもらう。 ・地域住民の困り事を考える ・口コミからの情報を流す。 ・あきらめないで何度かアプローチし、きっかけを作る。 ・ちょっとした+αの親切
効果	相談先がわからない	イベント・まつり
・つながりがどんどん広がる→困った時に相談できる人が増える ・社会復帰につながる ・家の前の道デコボコがでいた自治会の役員が写真とり市に申し入れた結果すぐになおしてくれた。 ・地域で知っている人に会うと安心する ・防犯につながる	・相談しづらいどこに相談したらいいかわからない ・人と関わるのがおっくう ・困り事があっても誰に相談したらいいかわからない ・電話でのお話しが難しい。 ・地域の情報を知らない。自治会って何？	・敬老や入学のお祝い ・地域の中の小さい公園に集まり(近くが大切)楽しくすごす会を ・イベントでの出会いから ・地域のイベントおまつりは若い世代も参加しやすい

【グループC】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
子ども	見えづらさ	あいさつが大事！！（きっかけ）
・子供会活動で地域の子供とつながった ・孫のお友だちの母親と LINE でつながりできた	・手入れがなく空家みたいだけど住んでいるかも？ ・孤立は見えづらくかわりがむずかしい ・住人の様子が外から見えない	・あいさつ運動 ・給食など食を通じて、本ねが出る
活発な地域のつながり	プライバシー	場所づくり
・地域行事の手伝いをして多くの人と出会った ・地域の清掃活動を通じ、街をきれいにできた。 ・スポーツジムで自然とあいさつや笑い話などでスポーツの継続になり体調が良くなった ・おすすめし楽しまれて活動に参加されている様子 ・長年の活動の中で知り合いが増え自分が楽しい	・近所の人に家の中まで知られたくないプライバシー ・プライバシーのむずかしさ ・守秘義務が多すぎて助けられない	・活動の場所作り ・ブラッと立ちよれる場所があるといい ・センターの利用の仕方が問題
ゆるやかなつながり	つながりいらない??	楽しむ！
・民生委員としてお年よりとのこうりゅうがふえた ・自治会であいさつをした事と、近所の方の困難を知る事になった ・月に1度1人のお年よりと電話	・人間関係を必要としない。 ・他人と口をきくことがおっくう ・外出しない ・話し相手がいない	・天の岩戸が開くような、楽しい行事をする ・家から出てたのしいと思える取組がたくさんあるといい
	情報	情報の届け方
	・相談事など出むかないと情報を取れない ・そもそもに情報を取り行く事をしない ・地域の活動について、よくわからない	・学校などトイレに色々な情報をはる
	タイミング	
	・相談する、時間タイミング合わない ・自分にあった活動時間のものがない	

【グループD】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
情報 ・近所の方とつながる事により情報を得るあるいは情報を教えることが出来た。 ・新しい情報にふれることができる。	災害 ・災害の時支援すべき人が分からない。 ・災害時の助け合いができない	災害 ・大災害が起きたならば地域住民が協働することができる ・大きな災害がないと自分ごとにならない。その時がつながるきっかけに。 ・こまった事がおきた時に社協、市役所がこんな事が出来るというアナウンスをもっと集知するべきだ。 ・困った時に頼る先として”私たち〇〇できます！”としっかり広報してほしい。
仲間／気持ち ・同じ悩みを共有した上で心おきなく話せる安心できる。 ・仲間と悩み等相談できる。 ・寄り添ってもらえると落ち着ける。 ・知り合いが増えた楽しい！ ・感謝してもらえる ・またやろう！！のモチベーション ・みんなと仲良くなれる。相談できる環境	つながらなくても OK ・心が変わった時、余裕があるその時に ・地域とつながる事がいやな人もいる(対人関係)なんか、気分的に地域につながりたくないなんかめんどくさい。 ・つながらなくてもいい！！OK！自分のことで精一杯	すぐ取りかかれることそうなこと ・見回り、声がけ ・近所の人へあいさつ ・時間を掛けて、話しかける。相手の興味がある話しをもちかける ・就労支援等、一緒に探してあげる ・回覧板話さなくてはいけない状況がある。 ・体調悪い？とまったら、気になる。回覧板でつながる！！ ・自治会活動の活動 ・自治会では、会員の方々が集まってくれる様な企画をする。(防犯、防災) ・お祭り・地域の住民・行政・企業
共通のわだい ・花壇の手入れをすることにより(体を使う)気分がスッキリ(仲間達) ・共通の話題で盛り上がると知り合いになりやすい ・つながりの連鎖スマホ教室→お祭り→防災訓練	気持ち ・離れていくムリにつながろうとすると ・関わりがなくなる ・信頼関係がきづきにくい ・否定的で(拒絶)話しができない時心が折れる ・親切心がいやだ	情報／行政への要望 ・心のわだかまりをほぐす！ひきこもり(家族)について、心理師さんに相談できる(個別に)システムをつくり、市全体に公報する。行政 ・公認心理士の専門相談窓口を作してほしい。つながりたくてもつながれない人家族のために ・専門の窓口知らない、分からない広報が必要、口コミ

	知らないことによる不安	情報発信のツール
	・ どのような人かわからない怖い ・ 防犯がしにくい	
	居住区によるへだたり／情報が届かない届いていない	
	・ A と B の地域近いのに何をやっているか分からない・作品展など・花の好きな人がいる	・ LINEのオープンチャット・相談先・地域のおまつり

■話し合いの結果の特徴

- ・ テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」

趣味の活動や自治会活動、子どもに関係した地域活動などを通じて人とのつながりが広がることで、情報共有の機会や顔の見える関係が生まれ、そこから得られる安心感が日々の生活をより豊かなものにするという、つながりが持つ重要性が共有された。

- ・ テーブルワーク 2 「“地域とつながりがいない状況” を考えてみよう」

不安や不信感などにより、会話や相談が困難になることや、孤立が周囲からは見えづらいこと、災害時には支援が必要な人を把握できず助け合いが機能しなくなる恐れがあることなど、つながりの欠如によって生じる孤立や孤独などの懸念が共有された。

- ・ テーブルワーク 3 「“地域とつながりがいない状況” をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」

支え合いの仕組づくりや、地域などとの連携による参加しやすい居場所の充実、災害対応や困りごとを支援する仕組みを「見える化」することなどにより、つながりを生み出す取組について共有された。

2 第一・富士見台・多摩川／第三・石原・飛田給小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名前）（原文通り）

テーマ グループ	テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」	テーブルワーク 2 「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	テーブルワーク 3 「ワーク 2 の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
グループ A	●場所 ●情報 ●人 ●出会い	●居場所 ●顔が見えない ●災害 ●近所付き合い	●イベント ●情報誌 ●その他
グループ B	●具体的多世代 ●人々同志のつながり活動よい事いけなかった事。ボランティア ●地域のつながり知り合い。新しい故郷ふるさと	●個人的 ●地域的	●個人 ●地域イベント ●企業・行政
グループ C	●イベントを通じての出会い ●障がいの理解 ●団体活動 ●あいさつ	●子そだて世代 ●病気、障がい ●防犯、関係が希薄に…	●情報について（行政・地域住民） ●（行政） ●あいさつができるようになるには…（課題）（個人）

■個別意見（原文通り）

【グループA】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあったよかったことは？」	「“地域とつながりがいない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがいない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
場所	居場所	イベント
・本 絵本の好きなつながり ・”ぬりえ”をはじめています。昔のぬりえと違いすごく色あいなど考えながらぬってみんなで語り合います。 ・コンサート音楽好きのつながり ・地区協議会いっしょうひだまりサロンのつながり ・誰かと会うために外に出る→健康になる ・どのような考えがあるか新しい発見がある。 ・子どもの学校、保育園のつながり ・自治会のつながり ・ひきこもりがちだが外に出るきっかけになる ・地域にこんな人がいると知れる ・福祉センターひだまりサロンのつながり ・新しい活動につながる生まれる	・個人情報だからと表札に名前を出てない ・自治会不要論が出たり役員になりたがらなくなつてつながりかきれい ・学校の連絡網もつくらなくなりどこに住んでいるかも知らせない ・たまり場が必要。年令には関係なく ・相談できる人がいない ・自治会の活動に無関心	・市報に自分の参加できるお知らせを見る ・手伝いたいけど何をすれば良いかわからない→何が必要か教えてほしい。 ・地域イベントに参加して出会う福祉まつり商業まつり等 ・性別、年齢、問わずに、だれでも行けるという場 ・地区協議会に参加する。地区協の活動を活発にする ・地区協議会に参加して活動づくりをする ・ひだまりサロンを増やす。(出会う機会を増やす)
情報	顔が見えない	情報誌
・知らない事を教えてもらえる。 ・地域のちょっとした情報が入る。 ・地域に住んでいる人の顔が思い浮かぶと地域愛になる ・ちょっとしたことを話せる相手がいる ・新しい情報が入る ・地域の子どもを気にかけるようになった。 ・みんなが見守られていると思える ・防犯になる。地域にいろんな目があると伝わる。	・地域の情報がくわしくわからない。 ・どんな人が住んでいるか見えない。 ・じっくりと語りかけることが少なくなった ・地域の情報が入っても、参加のハードルが高く感じる。 ・誰が住んでいるかわからない何となく不安。 ・信頼関係が生まれない ・地域の活動の内容がわからない ・活動の情報がはいらないから外出の機会もへる。	・自分の興味あるところだけを選べるようにする。(情報) ・分野別に情報があるとわかりやすい。 ・地域単位の情報誌。 ・広報誌(市)を見やすくする。 ・自分に関する(エリア)情報だけがほしい多いと困る。

人	災害	その他
・多摩川が近いのでウォーキング仲間とのつながりができた。 ・〇〇さんに誘われたから行ってみようかな, 参加につながる ・体を動かす出かける事が増える ・一人で抱えなくて良い安心感 ・信頼が生まれるあいさつから ・顔がわかる人が増える ・近所の方数名とあいさつしていますができる点。	・災害があったとき, 助け合えるのか不安。 ・自治会として, 避難のときに必要な情報。(お子さんが何人いる)。がわからない。 ・避難訓練にも参加しない参加しづらい。 ・災害等の時が心配。	・「この指とまれ」をしてくれる人。がいる ・目的・性別・年れいなどの区別なく, 自由に(気軽に)出入りできる場所があるとよいかな ・こういうものが必要と, 周りに投げかける。 ・住民をつなげるため行政の役割とは住民のつながり ・趣味や興味のあるものでつながる。
出会い	近所付き合い	
・人と会うとエネルギーをもらえる。 ・ちがう年代の方と出会える ・出会いが連鎖する ・若い人と出会える ・顔見知りが出来て“おはよう”“元気ですネ”からおしゃべりがはずみます	・家族が少なく, (独居など)出かける機会が少ない ・家にこもりがちで外に出ない。 ・共働きで昼間に顔を合わさない。 ・ご近所に無関心。自分の生活にだけ関心が向いている。 ・働いているとつながりたくてもつながれない ・世代間でつながりがない若い人とつながれない ・考え方がちがうとつながりがなくなる。	

【グループB】

テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」	テーブルワーク 2 「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	テーブルワーク 3 「ワーク 2 の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
具体的多世代	個人的	個人
・子どもの見守り ・子ども会 ・防犯の情報共有 ・健全育成のとりくみ ・情報誌シニア編がいろいろなところにおいてくれておりありがたい ・地区協議会でイベントにとりくみ地域全体で参加できてよいです ・地域の民生委員の方が中心になって、自治会でいろいろなイベントを取組み、他の自治会にも参加を呼びかけてくれており、助かっています。 ・ひだまりサロンで自治会の枠を超えて集まり楽しんでいる。 ・一つの居場所がきっかけで様々な交流が生まれた ・地域での認知症の理解が深まった	・単身で地域活動に参加していない ・生きがいの創出が難しい ・情報判断がしにくい(ぎぎに合いやすい) ・家族に小学生がいない。孤立世帯 ・引きこもり(健康でなくなる) ・情報格差が生まれる(高齢者) ・新築マンションの住人 ・気軽に話せる人がいない ・ひきこもり(病気による)精神・身体的理由	・単身者への訪問(民生委) ・民生委員の負担をへらしながら地域のボランティアとの連携をできるようにしてほしい ・(個人)あいさつをする
人々同志のつながり活動よい事いけなかった事。ボランティア	地域的	地域イベント
・楽しい時間を共有できる ・つながりをまたつなげてやりがい生きがいが増えた ・ボランティア運営のつながり	・自分も高齢化になり、ボランティアができなくなってきているコウケイ者づくりがむずかしい。 ・家(屋敷)の外見からではわからない ・お祭りがなくなる ・PTA が活動しなくなっている ・高齢化が進みボランティア活動ができない人が多い ・子供会がなくなっている ・地域に関する不満がコミュニティの悪いきっかけ ・男性も女性がずっと働いているのでボランティアをできない	・おまつりやイベントは大事。よいきっかけ ・自治会の資金不足を改善してほしい ・地域包括支援センターがもっと地域と情報共有できるようにしてほしい ・新しいコミュニティの(今の時代に合った仕組み) ・若い世代の輝ける場所づくり(地域) ・災害時要支援制度が少し進展しましたがもっと進めてほしい

地域のつながり知り合い。新しい故郷ふるさと		企業・行政
・飛小で地域の方が、あいさつ運動や、交通せいを毎朝やっている ・新しい友達ができた。 ・最近越して来られたお家。 ・倒れた方への対応。声かけができたこと ・困った時に助けを求められる ・知っている人に会うと安心する ・近所の顔見知り ・お店のお客様例自転車屋		・CSWをもっと人員を増やしてほしい ・地域参加のきっかけ作り(行政, 企業地域) ・(行政)連携の舵取りのうまさ ・新しい(企業・行政)地域活動の取り組み(ふるさと納税的な)仕組み

【グループC】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
イベントを通じての出会い	子そだて世代	情報について（行政・地域住民）
・西部地域センターで「ふれあいのつどい」を手伝いました ・学校イベントサークルに参加して楽しく生活 ・地域のイベントニテいろんな方と知り合う事ができた ・イベント後も声をかけあう関係性に。 ・まんまる(富士見町)で手づくり教室を始めた。小学生(低学年)	・PTAや子ども会がない小学校にいきたい ・両親働いているとボランティアとかをするよゆうがない	・市報にのせて発信しつづける ・市報に「つながりコーナー」をもうけてほしい。 ・イベントのチラシ→ポスティング(マンション) ・情報が多すぎると見る気になれない→すこししぼる ・掲示板の活用・自治会・学校など ・身近な地域福祉センターで、他の地域の情報もらえると良い。
障がいの理解	病気、障がい	(行政)
・フラットカフェ(青木病院)に参加して二年位。(認知症の勉強会) ・→軽度の認知症があっても、まちで声をかけ合える関係性ができた	・高齢のご夫婦でお奥様が認知症らしいが接点がない ・病気や障がいはかくしたい	・学校の福祉教育 ・子そだて充実させる
団体活動	防犯、関係が希薄に…	あいさつができるようになるには…(課題)(個人)
・ボランティア活動にて仲間がふえた。 ・PTA後つながり大 ・民生委員としていろんなつなが	・学校では知らない人にあいさつすると言われる ・女性の◎ひとりぐらし→防犯 ・1人ぐらしとみんなに知られたら	・ワンワンパトロール ・あいさつをする。とにかく知らない人でもする！

- りができた。(相談) ・地区協や民生のグループでの情報大切 ・つながりが太くなっていく	- あぶない ・ひょうさつのない部屋, 家が多い ・コロナで話さないようになった→今もつづいている ・年代はいっしょだけど, きっかけがない ・隣近所との顔合わせ! ・マンションでもあいさつをしない人が増えた ・おとなりさんほっとしてくれるのが良い面になってる。	
あいさつ	(枠外・テーマなし)	(枠外・テーマなし)
・朝のあいさつ ・朝夕の登下校の見守り。わんちゃんがいると親しみやすい。	・自治会がへっている ・趣味してると, 他のつながり不必要。 ・情報えらべない(多すぎ, スキル) ・親兄弟や友達のいない人→どうやったらつながれるか分からない ・活動に男性が1人。どうしていいかわからない。	・自分が楽しくないとつづかない! ・防災関係→興味をもってもらいやすい ・京王多摩川駅の活用→飲食店などふやす ・小地域交流事業など, ターゲットがかたよらないように多世代交流できるように工夫する ・スポーツをきっかけにつながる ・フラットカフェなどにごあんない
(枠外・テーマなし)		
・LINEや年賀状 ・まわりの人の状況が不明		

■話し合いの結果の特徴

- ・テーブルワーク1「つながりがあってよかったことは？」

サロンや交流活動の「場」が外出や健康づくりのきっかけになること, 子どもの見守りや防犯活動を通じた多世代の交流が地域の安心を支えること, イベントや団体活動によって人間関係が広がることなど, 多様なつながりが心身の健康や充実した生活を支える大きな価値となっていることが共有された。

- ・テーブルワーク2「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」

顔の見える関係性が構築されないことによる不安や孤立, 地域の活動や行事が衰退することにより, つながりがない状態が生まれやすくなること, 子育て世代の多忙さや, 病気・障害への配慮の問題などについて共有された。

- ・テーブルワーク 3「“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」

伝わりやすい情報の提供，個人・地域・行政・企業がそれぞれの役割を持って関わる仕組みの構築など，多様な主体の連携と情報共有・情報発信，交流等によりつながりを生み出す取組について共有された。

3 上ノ原・柏野／北ノ台・深大寺小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名前）（原文通り）

テーマ グループ	テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」	テーブルワーク 2 「“地域とつながりが ない状況”を考えてみよう」	テーブルワーク 3 「ワーク 2 の“地域と つながりがない状況”を なくすために、どんなき っかけや取組ができそ う？」
グループ A	●あいさつ・見守り ●ポジティブになる ●サークル ●知りあいできる ●情報が入る	●コロナ ●つながり薄くなる ●情報入らない ●心配な人	●サービス ●地域活動 ●個人でできること
グループ B	●きっかけ ●地域活動 ●気持ち・安心	●孤独「地域とつなが りがない状況」 ●無関心，偏見閉鎖的 ●ギャップで分断 ●⇒結果起きること	●ツール ●学校教育 ●おせっかい，声かけ ●伝える・相手の立場・状 況もふまえて ●ハード面
グループ C	●困った時に助け合う ●防犯	●つながりたいけど難し い状況環境 ●困ってない ●頼るのが苦手 ●学校	（意見区分タイトルなし）

■個別意見（原文通り）

【グループA】

テーブルワーク1	テーブルワーク2	テーブルワーク3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがいない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがいない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
あいさつ・見守り	コロナ	サービス
・あいさつ運動であいさつをする人がふえた ・朝のあいさつ運動(はたふり) ・朝の見守りで、地域の子供と顔合う	・コロナで、集まるリスクさげている ・コロナ禍でママ友ができない	・ちいきほうかつしえんせんたーみまもっと ・ヤクルトふっかつ ・みまもっとかつようする ・市などの何でも相談窓口の充実
ポジティブになる	つながり薄くなる	地域活動
・元気をもらえる頑張ろうと思える。 ・朝起きるのがつらいときもがんばっていこうと思える ・同じ立場の人に自分の気持ちを話すことで、気持ちが楽になった。	・同じマンションでも、ほとんど顔合わせない。 ・でがみかかなくなりました	・子供食堂等誰でも参加しやすい様に ・こみゅにていーすペースだれかがいるばしょ ・どんなサークルでも、毎回生存確認になる ・情報共有・さそいあい
サークル	情報入らない	個人でできること
・サークル仲間でひまになる事ない ・ドルチェサロン	・くちこみじょうほうがはいらない ・悪天候などで休校になった時学校にきてしまう子供がいる	・あいさつやはたふりをつづける ・LINEでも通報できるとよい
知りあいできる	心配な人	
・よみきかせで現役保護者とつながれた ・こども食堂で知りあいがふえた ・不登校の保護者の会でひとりでないと思えた ・〇〇さん(個人名)を知っている。	・せんたくものほしっぱなし ・さいがいがおおきたときがしんぱい	
情報が入る		
・同じサークルの人に心配な人がいるとご相談があり関係機関と共有して支援することができた ・地域会ギでイベントの情報入る		

【グループB】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
地域活動	孤独「地域とつながりがない状況」	伝える・相手の立場・状況もふまえて
・ご飯屋でサービスしてくれた。 ・地域の良さ共有できる(愛着) ・休みが充実した。 ・地域でのいろいろな事業に参加してもらって防災訓練等 ・自治会で実施しているじゃがいも掘り ・おち葉雪かき手伝う ・知ってもらえる人が増えた ・ふれあいサロンによる交流 ・地域で実施する交流福祉まつり ・行事に参加しやすくなる ・子ども食堂で子どもたちやパパママ参加, 笑顔がいっぱいつながりをみられてうれしい ・人と人とがつながっていくのを見て, 喜びを感じる ・ふれあい朝市に子育てに悩みを抱える親子参加→笑顔がみられた ・コロナで家族みんな倒れているときに, 食べ物届けてくれたり, Lineで励ましてくれた ・自治会で実施夜間パトロール	・寂しい。 ・孤立したままだったかも ・子のケアや孤立で, 親も体調を崩していたかも ・同じ状況の方とも出会えなかったかも ・SOS出せる出したいと安心して思える人がいない。 ・人と話せない, 会えない, ネットでもつながれない。 ・孤独孤立つらい共助しない ・世界中の中でこんなこと悩んでいるのは自分だけだと感じてしまう ・親自身も社会とのつながりがなくなってしまうかも ・お互いを知らない→あいさつできないしてもいいのか… ・大変そうな人がいても声をかけられない ・何か地域でやること, 関わること→めんどくさい…時間がない… ・SOSが出せない。 ・コロナ禍以降食事会飲みがなくなった。 ・とにかくさみしくてつらい状況 ・自分は孤独孤立無価値だと感じてしまう ・日常会っても挨拶がない・おはよう・こんばんは	・学校やPTA・地域の協力で, 茶話会など情報の発信。 ・知ってほしいだけではなく, 自分も相手を知ること大事 ・学校・地域福祉・医療のネットワークゆるやかな ・意識付 ・つながりたい時, タイミングでつながっていいことを伝えていく。 ・活動への参加呼びかける情報提供する ・つながりがないデメリット伝える。 ・地域のおまつり学校関係, PTAイベント→すごく楽しいよ!!と子どもの友だちとかママ友に伝える。 ・使い方を利用方法を(共有する) ・地域活動や地域情報を各支援機関や地域住民にCSWとして伝える ・悩んでいる人の声をキャッチしたら合いそうな情報をさりげなく伝える ・今あるものを(伝える) ・様々な場, 環境(知らせる)
きっかけ	無関心, 偏見閉鎖的	学校教育
・地域の楽しいイベントなどママ友からの情報!! ・防犯危険に気づく ・学校や学童の係をやってみることで, 今まで関わったことない地域の人とつながることができた。 ・防災意識テーマについて話せ	・誤った情報で周囲に伝わっていたかも ・無知無関心から傷つける ・おせっかいがない ・偏見でうわさを広める ・地域活動の情報提供不足 ・個人プライバシーを意識しすぎで話しかけない	・人権教育・多文化共生 ・自分ごとにしない。⇒その意識をもつために学校教育 ・小さい頃から教育 ・SOS出してよいと学校教育で教える

・ 近所のことを教えてくれた。 ・ 普段の生活では知ることができない情報をキャッチできた。	・ 対人への心づかいがない。 ・ 良い情報を得られない。 ・ どうして学校に行けていないのかも誰も知らなかったかも ・ 他人に厳しい(年齢とれず)	
気持ち・安心	ギャップで分断	おせっかい, 声かけ
・ 同じ状況の方と出会えた ・ 困っていること気づく ・ 視野が広がった。 ・ 一緒に考えてくれる人にも出会えた。 ・ 大変な時に支援ができた。 ・ 毎日の通勤や休日のお散歩で挨拶をすることで、最近の近況や今、困っていることをお互いに話せる関係の人が増えた。 ・ 他の困り事のある方が、相談しやすくなった ・ 体調くずしたあとに(肺炎)いろんな人からのありがたい、やさしい声かけ ・ 知り合い顔見知りが増えた ・ 話してみることで、「自分だけじゃなかった」「大丈夫かもしれない」と気持ちをきりかえることができるようになった。 ・ 顔見しりになることで地域の親子が安心になる	・ 世代間で分断してしまう ・ 子どもの成長とともににはなれていく。 ・ 年齢層で分断 ・ お互いに理解がない	・ 積極的な声かけ行動を行う ・ おせっかい。 ・ 地域で行う事業への参加をさそう ・ 誰かとつながる, いっしょに何かをやる楽しさを大人が子どもたちに見せる ・ 柔軟な対応(相手にあわせた) ・ 地域のおまつりイベントをまず自分が楽しむ！！ ・ まず自分からさわやかにあいさつ ・ 相手の相談に応じてやる
	⇒結果起きること	ハード面
	・ 元気な時はそれでも良いかもしれないけど, しんどい時は, 生きづまる。 ・ 今, 笑うことが出来ていなかったかも ・ 汚れた街 ・ 関心なし→犯罪→ゴミ ・ 子ども若者の生きづらさ増えてしまう ・ 活気なし ・ 余裕がない時間的経済的精神的	・ 誰でも道わきで座れるベンチ設置 ・ 子ども食堂大人食堂誰でも来てOK食堂を地域につくる ・ 知っていただくために自主上映会を開催 ・ 知っていただくために講師をよんでの学ぶ場
		ツール
		・ SNSから広げる ・ つながりやすいツールを使う。

【グループC】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
困った時に助け合う	つながりたいけど難しい状況環境	(枠外・テーマなし)
・幼稚園のママ友と今でも交流があり困った時に助けあう ・中学校の部活指導をしていて、地域の行事に人手が足りない時手伝ってもらっている ・暑い日にカギを忘れた子を保護してもらった ・PTAで一緒に役員をやっていた人と今で交流がある ・住民の方の力があることを知った	・つながりたいと思う状況にない(精神的・身体的になど) ・ケアラー介護で忙しい ・相談するところがない。わからない ・災害時にとりのこされるかも。 ・結果情報が少なくだまされやすい ・外に出る手段がない外に出れない ・サポートしてくれる人がいない	・相談できる場所を明確に ・幻聴で困られた隣の人が相談に来られた ・共働き世帯が多い ・みまもりした人が口コミで他の人に宣伝してくれる ・調理ができる人(子)を増やす ・IT化 ・ボランティアを増やす ・学校が状況をはあくしているの、学校に支援できる人を配置したらどうか
防犯	困ってない	
・あやしい事業者の情報をもらった。 ・「押し買」業者撤退させた ・防犯にもなる	・高齢2人住い or 家族だとサロンに入られない ・1人で困っていない	
(枠外・テーマなし)	頼るのが苦手	
・民生委員となり地域の方々と知り合うことができた ・亡くなられた方のご遺体の皆で見送り ・高齢一人住い女性の古い家電製品の更新手続き ・顔を知ってもらい、ちょっとした相談をしあえる ・キツイのは、自分だけじゃないことがわかった ・孤独をかかえていた人に気づく ・不登校の子どもが多いことがわかった ・助成金の手続きがきびしい ・関係機関とつながった ・さまざまな困難があることがわかった。 ・買物通院の交通手段に悩んでいることがわかった	・人好きあいが好きじゃない ・アイサツに無回答言い続けたら小声で「おはよう」 ・外に出る人と話すのが苦手 ・高齢男性にサロン参加願しても「オレはいいよ」 ・人に助けを求めるのが苦手 ・他人の言うことをきき入れたくない。	

	学校
	・学校が手いっぱいでは不登校児に対応できてない ・卒業していなくなれば、問題がなくなったと思っている。 ・たぶん10年以上すれば自立の道を見つけられる。
	(粹外・テーマなし)
	・生ゴミをあちこちに置き放し ・家の樹の枝がのびていても切って欲しいと言えない ・金銭的な余裕がない ・サポートの手をのばせない ・個人情報のかべ

■話し合いの結果の特徴

- ・テーブルワーク1「つながりがあってよかったことは？」

あいさつ運動や見守り活動を通じた顔の見える関係づくり、地域イベントへの参加による交流の広がりなど、多世代にわたる関わりが地域の安全と安心を支えていることが共有された。

- ・テーブルワーク2「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」

地域とのつながりがない状況は、SOSを出せない深刻な孤独に陥りやすい危険性があることや情報弱者になりやすいこと、自らつながりのない状況に身を置いてしまう危険性があることなどが共有された。

- ・テーブルワーク3「“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」

見守りサービスや相談窓口の活用、参加しやすい地域の居場所づくり、相手に配慮した情報の提供など、つながりを構築する取組について共有された。

4 第二・八雲台・国領／染地・杉森・布田小学校地域

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名前）（原文通り）

テーマ グループ	テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」	テーブルワーク 2 「“地域とつながりが ない状況”を考えてみよう」	テーブルワーク 3 「ワーク 2 の“地域と つながりがない状況”を なくすために、どんなき っかけや取組ができそ う？」
グループ A	●きっかけ ●安心 ●広がり	●孤立 ●ひま ●出かけない ●会話 ●心配 ●情報	●おせっかい・声かけ ●手段 ●情報相談 ●発信
グループ B	●日常と非日常 ●活動＆そこからの広がり ●地域 ●行政，社協 ●趣味・境遇	●拒否 ●危機感ない ●情報 ●孤立	●情報・知る ●生きる基本（食・からだ・コミュニケーション） ●地域・コミュニティ ●施策・行政 ●一時的な困りごと ●リスク
グループ C	●趣味余暇 ●情報共有 ●相談支援 ●交流	●心の栄養不足 ●SNS ●孤独・孤立	●意識啓発 ●居場所づくり ●情報発信・きっかけづくり
グループ D	●出会い ●助け合い ●情報 ●気持ち ●お土産	●情報 ●気持ち ●モチベーション低下 ●助け合い ●災害編 ●お土産 ●ポジ ●機能低下	●情報 ●助け合い ●地域イベント ●ピンチをチャンスに！ ●出会い ●あいさつ ●居場所（お土産）

■個別意見（原文通り）

【グループA】

テーブルワーク1	テーブルワーク2	テーブルワーク3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがいない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがいない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
きっかけ	孤立	手段
・小学校のPTAから地域のおまつりに参加したり人脈が広がった ・子供食堂を2ヶ月に1回することで、地域の方たちの知っている顔が増えた ・高齢者会食で各地域に住んでいる方と話す、キッカケができた ・友人を通じて趣味が更に広がった ・友人が増えた ・自分の地域外の方と交流が持てた。 ・小学校の登校の見守りをしてることによって、児童たちとの交流が持てた ・趣味が生きがいになった ・あいさつされてうれしかった ・知りあいが増えた。 ・柿をもらえた ・学校区内でも自分のまわりの方以外と交流が増えた。 ・家族も参加する、きっかけができた(PTA, おまつり, 防災くんれん) ・趣味が深掘りできる様になった	・孤立感 ・話し相手がいらない ・しゅみをやめてしまった！！何でも自分でできると人を寄せつけない人をよせつけない ・気持ちが落ち込む ・男性：退職すると活動の場、友人が周囲にいない。	・スマホ教室に参加年令関係なし ・会食をするだけでも(昼)参加OK ・ごみひろいをスポーツ化する(他地域で行っている) ・eスポーツの場の種類を増やす ・参加しやすい場を作る。(地域, 行政) ・防災活動等意義を感じられる活動への参加をうながす。 ・子供たちとの交流会を行う昔遊びや手作り(万げ鏡) ・ゲーム(遊びを通じた交流) ・日帰り旅行会, 散歩会。 ・散歩のようなもの ・バーベキュー
安心	情報	おせっかい・声かけ
・あぶない工事業者について教えてくれた ・近所の目に見守られて。 ・自分の住んでいるマンションでは”あいさつ”をすることで仲良くおしゃべりができて、顔がわかる ・子どもを助けてもらった(カギを失くし暑い外にいたところ) ・心配な人の安否確認が自然にできる ・災害のとき心強かった	・情報が入ってこない。 ・地域に(男性)溶けこめない ・情報が入ってこない ・地域の活動を全く知らない。しろうとしない！！ ・災害時にとりのこされるかも？ ・地域にとけこまない, 顔をあわさない	・まず挨拶声をかけて顔見知り ・顔を合わす機会にはあいさつ等声をかける ・知りあいの知りあいは知りあい！？ ・声かけの声かけ運動 ・意識を変える(家族のススメ) ・返事がなくてもめげずにあいさつ。

・プチ家出をした保育園児を保護してくれた		
広がり	出かけない	情報相談
・年齢層が色々な人達と出会えた友達になった ・自分から好きなサークルに参加できるようになった。 ・災害があった時に社協とのつながりがあって、手伝ったり、安心した ・地域活動に参加することで必要とされる意識が持てた	・出かける用が無くなり、フレイルになりそう。 ・高齢になるにつれて、外に出ないため交流がへる	・気になる人がいたら、知り合いの民生委員に伝える ・近所の気付きほんの少し感心を持つ新聞がたまってるけど～ ・地域包括を頼りにしている。
	会話	発信
	・会話の機会が減ると認知症になりそう ・だんだん会ったり、話しをする人がへってきた ・会社時代の友人は離れていく。	・回覧板やめずに続ける ・活動のチラシを入れる掲示する ・広報イベント等出かけて行くきっかけになる。
	心配	
	・洋服がよごれていた、本人気がつかない周りからいってもらえない ・変化にきづいてもらえない ・本人は独りがよい(人もいる)	
	ひま	
	・暇自分の生活以外何も無い。 ・暇を潰せない寂しい	

【グループB】

<u>テーブルワーク 1</u>	<u>テーブルワーク 2</u>	<u>テーブルワーク 3</u>
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
日常と非日常	拒否	生きる基本(食・からだ・コミュニケーション)
・ご近所同士の気づかい合い、支え合いが生活を支えている特に多摩川住宅 ・子どもの習い事保育園保護者の人 ・防災への意識を自治会などが啓発したり防災訓練を実施することで持ち続ける ・災害時の声かけ ・家から出られない方と電話でコミュニケーション年の違う友人	・近所付き合いを嫌う人がいる ・顔を会わせても挨拶つしない人 ・近所づきあいわずらわしい ・1人ぐらしの人の見守りを好まない人 ・自治会の役をやりたくない ・自治会に入っていない人が増加(孤立)自治会だけがもりあがっているのでは？ ・プライバシー	・食は大事に関するイベント ・まずあいさつからコミュニケーションのとり方方法 ・お茶会にきそう(食べること大事) ・高齢者を10の筋肉体操にきそう(動くこと大事) ・近所づきあい ・シルバーパスは外出を後押し

・近所の人との挨拶 ・買い物特に知り合いに出会う(バス, 電車 etc) ・名前は知らないけど挨拶する近所の人 ・近所の方との情報交換(防犯など) ・緊急時の安否確認(命を救う)ことにもつながる		
活動&そこからの広がり	危機感ない	施策・行政
・ひだまりサロン長い間会食サービスはかかわってきて会員が高齢になり認知症ぽくなった時社協支援センターとつなり助かった ・サロンなど人と会うことを楽しみにしている活力にしている高齢者が多い ・ボランティア活動をしている仲間と他の活動にも連けいして他の活動にも広がっている	・地域のこと災害のこと自分事にならないといけない ・訪問者のサギ? 近所につなぐ方法	・高齢者対策を具体的に示す ・支援機関が世代の枠をこえて働きかける。縦割りをなくす
地域	孤立	地域・コミュニティ
・開放活動での(少年サッカー)夏祭り参加 ・地域行事への参加(防災訓練) ・染地, すきもり, 布田それぞれの地区協議会がつながりの大きな軸になっている ・自治会活動 ・染地マルシェ, 布田わくわくひろばまつりなど地域のおまつりを通じ様々な団体の横のつながりがある ・今日の様な会への参加 ・地区協活動への参加 ・市主催の行事への参加	・1人暮らしの人のお風呂での死。何日も風呂場の電気がついたまま。気がついて誰も動かず。連絡先は? ・子育てのこと介護のこと(孤立)相談できる人がいない相談先がわからない ・地震や台風が来ても孤立する助けられない(孤立) ・悩みごと・状況がかなり悪化してからようやくつながる(先手が打てない)(孤立) ・自宅にひきこもる 8050 問題多問題(孤立) ・引越しをして近所に知りあいがない状況 ・自治会からの声かけ待ちになってしまう	・他の人の見習うところ学ぶ ・多世代交流の居場所やイベントおまつり染地・布田・国領 ・子供を介しての行事開催 ・祭, 運動会などの地域の行事を行なう ・空き家・店舗を使った居場所 ・施設, 学校のスペースを開放した場
行政, 社協	情報	情報・知る
・日々の活動で知り合い夫が介護状況になった時すぐ支援センターにつながり助かった ・困っている(困っていそうな)高齢者等を包括など支援機関につなげてもらう ・一人暮らしの方引越して来た方をあたたかく受け入れてくれるボランティアコーディネーターがいる	・情報過多で本当? 信用ある情報 ・オンライン情報の発信が面倒 ・オンライン情報一方通行	・若い世代に地域活動をPRできるSNSの活用

趣味・境遇		一時的な困りごと
・つながり多摩川土手散歩での友達になって時々食事会する ・校友会活動 ・同じ境遇のつながり子育て、ひきこもり退職後シニア ・趣味を通じての出会い・会話 ・毎日散歩の途中で寄るカフェでの常連さんとの出会い ・同じ趣味関心の人たちライオンズファン… ・登校の見守りボランティア子ども・保護者・シニア		・エレベーターの箱から全部取り替え工事の予定、高齢者への助け合いなどに期待感あり。(10日間) ・急に認知症認めたくない人へつながる
		リスク
		・身体に手をかけてのヘルプに不安。転んだり、ケガさせたり、怖い面あり。 ・ボランティアのリスクケガさせる食中毒…

【グループC】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
趣味余暇	心の栄養不足	意識啓発
・近所のことを教えてもらえた。 ・ひだまりサロンで、同じ趣味の仲間ができて嬉しかった ・共通の趣味を楽しめた。 ・近所のウクレレカフェでウクレレを習って同じ趣味の人と楽しめて良かった	・喜びとかのプラス感情が湧きにくくなる ・前向きな考え方ができなくなりそう ・行動半径がせまくなる(外出が減る) ・孤独を感じる(会話が少なくなる) ・不健康につながる。	・行事に参加してみる。 ・つながりはなんかの会に参加してみる ・意欲を持つきっかけを作る。 ・知り合いができたらいい。 ・興味を示すような声かけ、情報チャリン
情報共有	SNS	居場所づくり
・近所のご飯屋でサービスしてもらえた。 ・インスタ自分の欲しい情報が入ってくる。 ・子どもの忘れ物が減った。 ・スグに会えない人でも、SNSでつながることができて、交流できてうれしい。	・困らない、SNSがあるから。特に現役時代は。	・年代を超えた居場所 ・悩み相談の窓口をもうける同じ悩みの人が集まって語り合う機会・場をもうける ・不登校の居場所づくり ・子ども、外国の方障害者、高齢者といった多様な世代と一緒に取り組める娯楽をしたい

相談支援	孤独・孤立	情報発信・きっかけづくり
・夫がいて、妻が入院した時に手続きや家庭の事などやってもらえた ・地域包括や社協の人達と顔見しりになれたこと ・心センターに通っているの、身近に同じ悩みを持った人がいて、話をきいてもらえる。 ・入院の時色々とお世話になった。 ・中学校時代の親友とLINEでつながってることで、人生の悩みごとを聞いてもらえ支えてもらえること ・大変な時に支援ができた。	・寂しい。 ・悩みをひとりでかかえてしまう。ひとりで苦しい。 ・話し相手がいないさみしい孤独 ・相談ができにくい ・困った時に相談できない支援してもらえない ・家族以外のつながりが無い。 ・地域のことが何もわからない。情報が入ってこない。 ・SOSが出せない。 ・人とのつながりがへった。 ・引っ越して友人がいない。	・回らん板の復活 ・相談窓口を知る。 ・仕事をしてる人でも参加できる場や同世代で集まれる機会を増やす。 ・学校関係以外のつながりを増やすために、勉強会やこんだん会をもうける。 ・町ごとのSNS発信 ・バス停にけい示板 ・調布市の情報をもっとInstagramなど、SNSで発信してもらう(紙じゃなくて) ・仕事がお休みの日でも、趣味のサロンなどがあるときっかけになる ・児童館や若者サポートステーションがあるのに、昔のような敬老館がないので高齢者の居場所が充実してない
交流		
・たまに会ってたのしい。 ・顔と名前が覚えられる。 ・安心できる。 ・寂しくない。支え合える。 ・PTA活動→卒業してもつづいてる健康増進 ・平日だけじゃなくて、仕事をしていても、お休みの日に、お話をしたり、一緒に楽しめる人が身近に欲しい ・長く付き合える友達ができた。		

【グループD】

テーブルワーク 1	テーブルワーク 2	テーブルワーク 3
「つながりがあってよかったことは？」	「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	「ワーク2の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
出会い	モチベーション低下	あいさつ
・孤独が軽減される ・知り合いが増えた ・道端で会ったときにあいさつできる→安心 ・仲間を集められる ・紹介をしてもらえる。 ・今まで出会えなかったことない人と会えると視野が広がる	・たいくつかも。 ・ひまずきる。 ・出かける用事がなくなるシニアの教育＝今日行く ・出かけない	・あいさつからの会話 ・特に1人世帯の人に話しかける ・ふだんからあいさつや会話を心掛ける ・災害の時のために、ご近所さんとはあいさつする
助け合い	助け合い	助け合い
・水害(多摩川)があった時、声をかけ合って避難した。 ・安心・安全になかの時に助けてもらえる ・急に体調を悪くして、救急車を呼んでもらった。 ・協力を得られる ・編物でお世話になって助かった ・コロナに感染した時に買物をしてもらい助かった。	・困りごとでいきづまる ・助けを求めるのが遅くなる。 ・困った事があっても気軽に話せない頼めない。 ・SOS出しても助けてもらえない ・家のトラブルをかくしたくなる(助けを求めない) ・スマホがわからない時	・自分ができる事をお手伝いする ・ヘルプを求める。 ・自分からきっかけをつくって友達に声掛けする ・SOS出して良いことを伝えていく
情報	情報	情報
・地域の情報がキャッチできる ・情報が入る介護など	・地域のことが分からない	・つぶやきやすいツール ・身近な施設に情報掲示(スーパー、コンビニ、病院、銀行、学校、保育園)
気持ち	気持ち	ピンチをチャンスに！
・気晴らしができる ・自分の気持ちを聞いてもらえた ・楽しい ・10 筋体操のメンバーが減らないこと ・家族の入院の時知り合って今もお友達でいます。年令も違いなので	・人に会うのがイヤ ・気持ちが沈んでくる ・知らなかったことで引けめを感じる ・顔を合わせても会話がでない ・地域にどんな人が住んでいるかわからないとあいさつもできない。 ・まわりの様子がわからない不安。 ・孤独感・疎外感	・ちょっとした事件。(救急車を呼ぶ)(水もれ)(排水つまり)
お土産	お土産	居場所(お土産)
・お土産を渡せる ・お土産を選べる。買える。	・お土産を買えない	・公共施設の柔軟な解放(利用条件緩和)

		・お土産でお茶会をする ・エンガワ的な居場所
	災害編	地域イベント
	・災害時孤立無援 ・災害時等助け合いがむずかしい。 ・災害の時に困る助け合えない ・火事の時 ・急病の時	・防災訓練などの地域イベント ・美化活動参加しなきゃ的な ・地域の行事に参加するよう声をかける
	ポジ	出会い
	・わずらわしくない	・つながりを沢山もっている人とつながる
	機能低下 ・話す人がいないと、声が出なくなるかも？	

■話し合いの結果の特徴

- ・テーブルワーク1「つながりがあってよかったことは？」

地域行事、見守り活動等が交流のきっかけになるとともに、つながりが広がることによる孤独の解消など、多様なつながりが地域の安心を支える大きな力となっていることが共有された。

- ・テーブルワーク2「“地域とつながりがいない状況”を考えてみよう」

地域とつながりがいないことで孤立感や不安感が高まることや、人付き合いを避けた心理、情報化の進展により、つながりを必要としない状況が生まれていることなどが共有された。

- ・テーブルワーク3「“地域とつながりがいない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」

誰もが参加しやすい居場所づくりや多世代が交流する居場所づくり、情報発信や意識啓発、日常の挨拶や声かけの積み重ねなど、多様な機会を通じてつながりを構築する取組が共有された。